

平成28年熊本地震 職員派遣

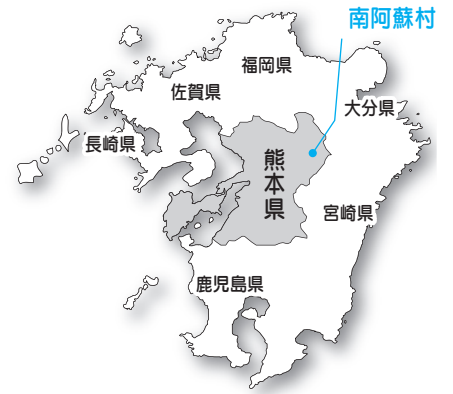
4月14日(木)、および16日(土)未明に熊本県を中心とした大きな地震が発生し、それ以降も余震が続き大きな被害が出ました。

大口町でも5月12日(木)から19日(木)熊本県南阿蘇村へ、都市整備課佐橋竜午さん、税務課石原健次さんが派遣され、罹災証明書の発行に向けた家屋等の被害認定調査に従事しました。

調査中、被災者自らが語る被災当時の体験や被害の状況を聞き、現在



▲家屋等調査の様子



も続く避難生活に苦難されている状況を目の当たりにしたそうです。
「大きな被害があったにもかかわらず、早く普通の生活に戻ろうと懸命に頑張っている南阿蘇村の皆さんの姿がとても印象に残りました」と佐藤さん。石原さんは「南阿蘇村は自然豊かな地域のため、早く多くの観光客でにぎわい、まちが元気になるって欲しいと思いました」と熊本の復興を願いました。



▲副町長に派遣中の様子を報告する佐橋さんと石原さん

現在も大口町役場より東日本大震災復興支援のため宮城県南三陸町へ職員が派遣されています。

南三陸町派遣職員レポート

平成23年3月11日から、5年以上が経過した、今の南三陸町をお伝えします。

町の中心市街地は、地盤を高くするための盛土工事が完了し、商店街や住宅の再建など、街の活気を取り戻す工事が始まっています。開通した幹線道路を中心に、町内はおびただしい数の建設車両が往来し、町内のいたるところで建設重機がうなりをあげています。

町の復興が、日々、着実に進んでいるのだと感ずることができまます。

そんな中、南三陸さん商店街内の仮設店舗で、飲食店を営む店主と、お話をする機会がありました。

店主は、「この仮設店舗に、県内外の多くの人が足を運んでくれることに、本当に感謝しています。」と話してくれました。続けて「ただ、その中に、地元の人たちがいないんですよ。もともと、地元の人たちが来るよう



な食堂だったんだけどね。震災ですべてが変わってしまった。今後の店のあり方も、考えさせられるよ。」と、今の心境も話してくれました。

住民の皆さんにとって、「本当の復興」には、まだまだ時間がかかるのだと感ずりました。

